

その後、照の王は体調を崩して大関から陥落。若ノ嶋は横綱昇進と明暗が分かれた2人だが、お互いのライバル視する姿勢は今も変わることはない。

両者の直近の対戦は遡ること138回場所八日目。実に24場所もの間、対戦がない。このまま勝ち続け優勝争いをして9年振りの対戦が実現するのか？

次回の本場所11月4日の開催。中盤戦から後半戦へと入っていくが、どのような優勝争いとなっていくのか？乞うご期待。



照の王○(寄り切り) ●桃乃洲

十両は西富士、磯蛭が5連勝

十両は五日目を終わって5連勝としたのは、西の富士と磯蛭の2人。1敗は大石丸、駒波、超刃、千丈岳、音柱の5人。

西の富士は、鹿麒麟に押し倒して仕留めて白星を積み重ねた。このまま更に勝ち込めば来場所の新入幕は間違いなく。西の富士以外で好成績を上げているのも春日根勢など。



西富士○(押し倒し) ●鹿麒麟



西富士○(寄り切り) ●伊達富

幕下時代は十両昇進までは時間がかかった。磯蛭だが昇進するやこまでは見違えるような活躍ぶりを見せている。

黒廻しの時よりも本廻しを付けると化ける力士がいるが、磯蛭がまさにそうだろう。特に二日目の寶蔵戦と5勝目を上げた葵盛の一番は華麗に投げを決めて館内を沸かせた。最近では投げの力士がいなくなっているのが貴重な存在だ。



磯 燕○(上手投げ) ●葵 盛



磯 燕○(押し倒し) ●朱雀湖

優勝争いは、現時点で西の富士、大石丸、音柱の春日根勢3人と、磯蛭、千丈岳の磯ノ海勢と駒波あたりの争いになる模様。ここから誰が抜け出していくのか注目される。

かたや、下位では錦風部屋三羽烏ガのうちの逆元春と虹ヶ谷の2人に暗雲が立ち込めてきた。逆元春は何とか連勝して星を戻したいところだったが、流れは変わらず5連敗となり十両残留にはあと1敗しか出来ない苦しい状況。2連勝していいスタートを切った虹ヶ谷も椿富士、音柱に連敗。中日以降の巻き返しも期待がかかる。

実力伯仲の幕下、新幕下栃尾山に注目

今場所は上位に十両からの陥落組が陣取り熾烈な昇進争いが繰り広げられていきそうだが、先場所同様最大勢力は磯ノ海部屋の7人。これに桐壺、錦風の両部屋が4人と続いている。

一場所での返り咲きをかける陥落組では逆起と太刀鳳が白星スタート。そして十両昇進が幻となった東三枚目の磯雷光は、今場所こそはと親方ともども気合十分。取組前の体重測定では規定よりまさかの8キロオーバー。管理不足で批判を浴びたが、本割では虎ノ國

を難なく寄り切ってこちらも好スタートを切った。兄弟子の難波山と千曲海が苦戦を強いられる中、奮闘している達子波が西五枚目まで番付を上げてきた。菊地原との対戦となり、菊地原が左を差しし、菊地原を差し入る元目と右を差しし入る達子波。菊地原がそのまま土俵際まで寄って出たが得意ののしかかるような逆転の上手投げが決まった。



達子波○(上手投げ) ●菊地原

友砂部屋の巨鵬も十両昇進を伺う。初日は十両経験者の西安に左を差して寄り切りで勝利。友砂親方は関心は薄そうだが、初土俵時は巨人と大鵬から付けた四股名で期待も高かっただけに、ここは一気に昇進を決めて存在をアピールしたいところだ。

今場所の新幕下は3人。そのうち錦風勢が2人。その逆青雲と栃尾山が揃って白星発進とした。特に栃尾山は錦風部屋の若手の中でも一番に期待される存在。



栃尾山○(寄り切り) ●吉備里

吉備の里との一番は全く相手に相撲を取らずに圧倒した。今場所とはびぬけた力士がいらないだけに俄然優勝候補の筆頭に躍り出ている。 (勝間田)

三段目、序の口

三段目では大勢、如月、伊勢里、逆岩、鎧島、笹熊ら有力力士が白星をあげる中、優勝候補の一角、把若寿、福笑が敗れた。

その滑稽な風貌から人気抜群、2場所連続4勝をあげており、実



筑波海○(押し倒し) ●福 笑

力も十分な福笑だが、秋田部屋の筑波海が強い相撲にあっさり寄り倒された。

序二段注目目の一番は先場所序の口で優勝した逆元春の弟、逆本と4勝1敗で二番手だった春日根部屋の逸材、天真との一番。激しい差し手争いの末、逆本が左を差しして黒房下に寄り切った。



逆 本○(寄り切り) ●天 真

付出し勢の中で好取組は加古川部屋内の厳しい選抜戦を勝ち抜いたであろう期待の手柄山と大松戸部屋ながら朝日松一門の固有宇「荒」と富士浪一門大熊部屋所属を表す「熊」をWで拝借した四股名で注目の荒熊との一番。



手柄山○(押し出し) ●荒 熊

取組前から話題の両力士だったが、相撲は手柄山が鋭い寄り切りから荒熊を寄り切り、初日を飾った。



山芭杜●(寄り切り) ○諏 訪



鈴 木●(下手投げ) ○凸 錦

奇妙な四股名、凸錦(とつにしき)は早くも凸凹(でこぼこ)のデコ錦だ、と話題になっている。実力も中々住之江部屋の鈴木を下し、手投げで下した。

序の口に留まり、最後のチャンスにかける。ベテランの太刀鳳、富士の海、英前田だったが、残念ながら初日は黒星のスタートとなった。 (鹿)